



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

東北関東大震災、お見舞い申し上げます。

平成23年3月11日(金)、東北関東大震災が発生し、岩手県、宮城県、福島県は地震と津波で壊滅的な被害に襲われました。千葉県では、太平洋沿岸に面している旭市等にも津波が襲い、大きな被害となりました。液状化により、千葉市や浦安市、香取市等被害が甚大です。さらに、福島原発の事故により、日々の生活が根本から不安定な状況にあります。

会員の皆さまには、直接、又は親せき、友人など被害にあわれた方がおいでになると思いません。お見舞い申し上げます。震災地の一日も早

環境パートナーシップちば代表 桑波田 和子

い復興を願うばかりです。

皆さまも、地域での活動などを通して「元気と笑顔」を皆さまに広めていただければ幸いです。環境保全活動団体としては、今までの活動を振り返り、今後に向けて必要な事(活動)を再認識していくことが重要です。現在、震災地支援に向けて義援金等の活動が広がっています。当会も支援できる活動を展開していきたいと思っておりますので、活動に対するアドバイスや情報などを事務局までお知らせください。よろしく願いいたします。

「エコスクールちば」の活動報告～市川工業高校定時制の試み

千葉県立市川工業高等学校 川北 裕之

1 「エコスクールちば」とは

「エコスクールちば」とは、県内の各学校が、地域や学校の実態に応じて、「環境に配慮した学校づくり」を目指す活動のことである。この活動の際には、「千葉県環境マネジメントシステム」に基づいた「千葉県学校版環境マネジメントシステム」(以下、「学校版システム」)に則ってすすめる。どのようなシステムを学校でつくるのか、環境教育(学習)の推進する事業として、千葉県総合教育センターが中心になって2007年度より調査研究に取り組んだ。

筆者は、当初より3年間、「学校版システム」づくりに協力してきた。3年目(2009年度)には勤務校の実態に即した「学校版システム」をつくりながら「環境に配慮した学校づくり」を行った。本校を含めた協力校の事例を元にして学校版システムの枠ができた。この枠を元にして2010年度は、参加校を募集しコンテストを実施した。ここでは2009、2010年度の活動を中心に報告する。

2 学校版のマネジメントシステムづくり

学校版システム構築の際には、市川市等を参考にISO14001の学校版を考えた。しかし、記録・書類整理の煩雑さ、審査機関設置、経費の問題で、「1.環境方針、2.計画、3.実施と運用、4.点検、

5.見直し」の一連の手続きを踏み、改善を図りつつ進めるものの、中身は各学校の実情に応じて計画し無理をせず実施することになった。その際、以下の6項目を基本コンセプトとした。

- ①「教育活動」としての環境学習と「環境事業体活動」としての学校づくりの2点を意識して行う。
- ②まず「すべきこと」を明確にする。
- ③次に「できること」「プラスワン」の積み重ねから大きな成果にする。
- ④児童・生徒・教職員が「やる気」をだして主体的に取り組めるようにする。
- ⑤競争ではなく、助け合い、認め合い、励まし合い、高め合う。
- ⑥ふりかえり、話し合いを十分に行い、納得して次のステップへつなげる。

3 2009年度の試み

市川工業高校定時制では、④のコンセプトに従い、教職員、生徒代表からなる委員会を組織した。メンバーは、教頭(環境管理責任者)・教職員リーダー(委員長)・教職員サブリーダー(副委員長)・生徒リーダー(生徒会長)・工業科代表・普通科代表・生徒指導部生徒会顧問・事務長・生徒会議長からなる。

委員会を中心に、現状把握、実行計画、記録、広報、報告書作成を行った。

現状把握では①に従い、各教科から環境を題材とした学習を集め、新聞の形で全教職員に配布した。教科間の内容の重複や視点の相違が認識され、教科間連携の可能性もみえてきた。事業体としては、その時々ので電力の把握できることが分かった。これは、本校に2007年より「エネルギー監視システム導入モデル事業」の一環でデマンド計が設置されており、30分ごとの電力量が分かるようになっていたからである。

実行計画では、他に生徒会主催の学校周辺の清掃活動、エコスクール新聞発行を加えた。電気科の課題研究(4年)で「エコスイッチ」に取り組むなど新たな活動も行われた。節電では、デマンド計を使ってデータをもとに取り組んだ。これは特に効果があり、節電への意識が向上した。最後にアンケートをとり、次年度への課題を整理した。

4 コンテストに参加(2010年度の試み)

システムが形になったことで、エコスクールちばコンテストに参加することにした。昨年度の反省をもとに実施した。その結果、新たな成果として次の3点をあげることができた。

- ①エネルギー監視システム(「エコプロ21」)が再開でき、データをもとに節電ができた。
- ②このシステムの活用により定時制から全日制にも活動が広がった。
- ③エコスクール活動を地域活動に生かすことができた。

以上に内容をまとめ、報告し、1月23日のコンクールちばコンテストでは、優秀賞をいただいた。最優秀賞(小学校)、優秀賞(本校以外小・中各1校)はともに君津市立の小中学校であったことを考えれば、一から始めた本校に取り組みは最大の評価を得たと考えている。

環境学習コーディネーター「ELCoの会」発表会 『つないで楽し!!環境学習』

日時:2月26日(土) 13:30~16:30
参加者:26名

会場:きぼーる 会議室4
主催:ELCoの会

【プログラム】

- ◆基調講演 「つながる、広がる、環境教育」 市野 敬介 NPO 法人企業教育研究会事務局長
- ◆活動報告会 「企業とつなげる環境教育」 平野 祐仁 NPO 法人千葉自然学校
- 「地域と学校をつなげる」 横山 清美 環境パートナーシップちば
- 「放課後児童クラブに環境学習を」 土田 茂通 アースコン・マツド
- 「コーディネーター育成講座について」 小川 かほる 千葉県環境研究センター
- ◆ワークショップ テーマ:楽しくつなぐために、どうするか?
- ◆グループ報告 ◆まとめ

環境学習を推進していく上で、「学びたい人」と「学びを支援する人」をつなぐ環境学習コーディネーターが必要とのことで、平成21年度県とNPOの協働事業として、「環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業」を展開しました。受託団体は、環境パートナーシップちば、NPO法人千葉自然学校、GONETの3団体でした。事業終了後、人材育成プログラム等に参加された方と受託団体が主となり、県内の環境学習をよりよく推進するために、環境学習コーディネーターの育成と活用を図ることを目的として「ELCoの会」を設立しました。22年度は、千葉県環境研究センターが主となり「ELCoの会」が支援して、「環境学習コーディネーター育成講座」の実証研究を行いました。また、エコメッセ2010にブース出展し、コーディネーターの周知を図りました。22年度の活動報告と、ELCoの会を周知するために、

今回の発表会を開催しました。参加者は、教師、企業、行政、市民団体等に所属している方でした。

基調講演では、代表の市野氏から、学校・NPO・企業をつなぎ、授業づくりをしている実態を通して、環境学習コーディネーターの必要性などについての講演でした。

平野氏からは、千葉自然学校がコスモ石油、アラックス、ハウス食品等の企業と地域や子どもたちをつないでいる事例の発表。横山氏からは、小学校と地域の市民団体をつなぎ、4年生の総合学習実施に至る過程の発表。土田氏からは、教えたい(学びを支援する)からの依頼を受けて、放課後児童クラブとつないだ例でした。小川氏からは、環境学習コーディネーター育成講座の実証講座に参加した人について、効果や評価などの検討についてでした。ここでは、21年度作成した育成プログラムは、実証研究を経て改善されました。

活動報告の後は、3グループに分かれ、「楽しくつなぐために、どうするか？」をテーマにワークショップ（WS）を行いました。WSに入る前に、参加者で高校教諭の川北先生から、高校での環境学習や学校の事情などについてお話をお聞きしました。

WSの報告では、「学校側はNPO団体についての情報が少ないため、NPOを理解していただくことが必要で、NPOと行政と連携を持つことで、信頼

されることも必要。」「総合学習の時間が少なくなり、理科教育の分野などで環境との接点をつかむこと」「環境学習コーディネーターを広く周知することが必要」「環境という視点だけでなくESDの視点が必要」等ありました。

今後、ELCoの活動に向けての課題はまだまだ多くありますが、できるところから着実に実行しながら解決していくことが重要と思います。

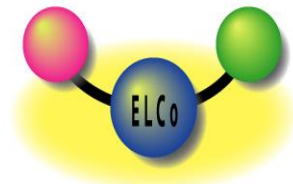
(文責 広報部)

ELCoの会へのお問い合わせ：

e-mail：elcochiba@gmail.com

Tel：090-5415-9074（桑波田）

事務局：環境パートナーシップちば気付 ELCoの会係



第8回 レスポンシブル・ケア 千葉地区地域対話集会 報告

環境パートナーシップちば 桑波田 和子

平成23年2月8日（火）市原市内で「第8回 レスポンシブル・ケア 千葉地区地域対話集会」が開催されました。対話集会は、①工場見学（希望者）：電気化学工業（株）千葉工場 ②活動事例紹介・対話 ③情報交換会（懇親会）会場：サンブラザ市原の3部構成でした。

レスポンシブル・ケアとは、『化学物資を製造、または取り扱う事業者が、自己決定・自己責任の原則に基づいて、科学物質の開発・製造から廃棄に至るまでの全過程にわたり、環境・安全面について自主管理を行っている化学業界の活動』とあります。千葉地区のRC（レスポンシブル・ケア）委員会会員が推進しているレスポンシブル・ケア活動の一環として、地域自治会、地域の商工や行政の方々との対話に重きをおき、2年ごとに開催されているそうです。当会は市民団体として参加させていただきました。

今年のテーマは、環境保全協定と千葉県の環境がテーマとして取り上げられ、企業の取り組み事例を紹介し、これらを基に環境保全に関する対話が進められました。

ちなみにRC委員会千葉地区会員企業は、旭硝子（株）千葉工場、住友化学（株）千葉工場、出光興産（株）千葉工場等20社です。

①の工場見学は、電気化学工業（株）千葉工場を訪問し、化学工場ということでバスからの見学となりました。石油化学分野の樹脂加工部分の製

品を作ることを主とし、隣接のコスモ石油、丸善石油化学等から原料を受け入れ生産しています。消費者の目に見えるものとしては、ビニーテープ雨どい、コルゲート排水管等があるそうです。車窓からは配管しか見れませんでした。工場内の海岸に近い場所で下車して近くの海を見ました。そこには大きなボラ？スズキ？がたくさん集まっていました。集まる原因は、排水管からの水温が温かいせいもあるそうです。②の事例紹介は千葉県環境生活部環境政策課から「環境保全協定と千葉県の環境」について。チツソ石油化学（株）からは「ボイラー燃料転換と環境保全活動」、旭硝子（株）からは、「環境保全活動の取り組み」について紹介がありました。

対話は、パネルに、八幡地区、五井地区、姉崎地区の町会長と事例紹介者等の8名、コーディネーターは、樹木・環境ネットワーク協会会員の生駒秀雄氏でした。

町会長さんのユーモアに富みながらも地域住民から工場への不安事項について、事実確認など質問され企業の取り組みや今後の課題などが話し合われました。さらに会場からも住民の方の意見等活発な対話となりました。コーディネーターの生駒氏が、企業用語等の解説を住民の立場からの視点で適切にサポートされたことが、参加者にも分かりやすい対話となりました。

水の基本学習参考資料・・・「水と私たち」・・・

特定非営利活動法人 えどがわエコセンター 翔山 正行（当会会員）

東京都江戸川区の都営地下鉄新宿線「船堀」駅前のタワーホール船堀にある、特定非営利活動法人「えどがわエコセンター」では、環境学習リーダー養成講座を主催しており、センター設立前は、江戸川区が実施していました。

講座修了生は、環境問題について「こんなことをやりたい」「こんなメッセージを伝えたい」等の思いを実現するためにサークルを結成し、区やセンターを中心に活動しています。

今回、水に関心を持つ仲間が冊子を作りました。それが「水と私たち」（水の基本学習資料）で、小学3年生以上を対象に「水は生命をつなぐ」「水は人間の社会を確立する力がある」ということをテーマに水の基本を初歩的な内容にまとめてあります。

編集にあたり、小学6年生と4年生が子ども編集委員として加わり、イラスト、データづくりの実験等に積極的に活動してくれました。編集会議では子ども同志で分からない用語を学校で学んだ

知識などで、お互いに教えあっていました。子ども編集委員は、区内の小学6年生2名、小学4年生1名の計3名でした。

私は水の研究者、環境キャスターの立場からアドバイザーとして編集に携わりました。具体的には、子供たちから「漢字をまだ習っていない」「内容がわからない」等様々な質問が出て、子供たちにも分かりやすく、また、保護者の方々にも読みやすいように工夫しました。

この冊子は、江戸川区内で活用されていることは言うまでもありませんが、他の地域からも反響があり、私としてもやりがいがあったと実感しています。

お問い合わせ：

特定非営利活動法 えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1
タワーホール船堀 3階

<http://www.edogawa-ecocenter.jp/>

「千葉県海岸漂着物対策地域計画」が策定されました

国は、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理などの推進に関する法律」（海岸漂着物処理推進法）を平成21年7月15日公布・施行しました。さらに平成22年3月30日閣議決定された「基本方針」（環境省）に基づき、「千葉県海岸漂着物対策地域計画」策定しました。

この計画は、千葉県環境生活部資源循環課が事務局となり関係者及び学識経験者から構成された「千葉県海岸漂着物対策推進協議会委員会」を設置し、推進会議等で検討されてきました。当会は市民団体として委員を引き受け関わらせていただきました。パブリックコメントは、平成22年12月1日～28日まで実施され推進協議会を経て平成23年2月25日付け策定されました。

計画の目的は、『海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するため、「千葉県海岸漂着物対策地域計画」を策定し、海岸の良好な景観、多様な生物の確保、生活衛生の向上、水資源の保全などの総合的な海岸環境の保全を図る』とあります。

千葉県内の海岸の漂着ごみは、主に山、川、海という水の流れを通じて漂着する県内由来のごみです。具体的には、流竹木、ペットボトル、ゴミ、プラスチック類です。

漂着物対策の基本方向性として、①海岸漂着物等の円滑な処理。②海岸漂着物の効果的な抑制。

③多様な主体の適切な役割分担と連携の確保とあります。

海岸漂着物を重点的に推進する地域として、市町村の調査の結果、木更津市、富津市、館山市、鴨川市、いすみ市が選定されました。

地域住民、民間団体、事業者等の役割分担としては、①1人1人が日常生活において3Rを推進するとともに、海岸清掃活動に自主的・積極的に参加する。②民間団体等のネットワークを活用し、県及び市町村等と連携して、普及啓発等に参画することが望まれる。③事業者の社会貢献活動の一環として、地域活動への参画と支援が望まれる。とあります。

千葉県では、3R月間や千葉県道路・河川海岸アダプトプログラム等の関連事業も展開しているのと併せて市町村と市民団体との連携で湾岸ゴミ清掃など開催されています。漂着ゴミは里山保全や暮らし等地域との関連も深いことから、市民・事業者・行政とのパートナーシップの必要を強く思いました。（文責：桑波田）

「千葉県海岸漂着物対策地域計画」

<http://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/keikaku/kankyouseikatsu/kaiganhyoutyaku.html>

「八千代市谷津・里山保全計画」が策定されます

八千代市はたるの里づくり実行委員会

平成15年5月に全国初で「千葉県里山条例」が施行され、県内の里山保全活動などが推進されてきました。八千代では、県内の市町村の中では初めて「八千代市谷津・里山保全計画」が平成23年3月に策定されました。

八千代市は首都圏から30km圏内で、中央には新川が流れ、その周りに田園風景が広がる緑豊かな街でしたが、近年、東洋高速鉄道の開通等により新興住宅地が広がり、県内でも人口が増えている市の一つです。

計画の背景は、暮らしの変化や都市化、農家の後継者不足等により、谷津・里山は減少していること等によるそうです。

谷津は、一般的な定義においては里山に含まれますが、八千代市では谷津の地形が特に顕著であり、古くから人々の生活と密接に関わってきたことから、計画では谷津と里山を分けて定義し、その両方を保全の対象としています。また、生物の往来が可能なコリドーとしても市内にある谷津・里山を保全していくことは重要とされます。

計画では、市内の谷津・里山を限定し購入するのではなく、民有地を保全していくための仕組み

が図られています。計画の目標は、「谷津・里山が保持する多面的な機能を持続的に保全・再生し、次世代に引き継ぐことにより、都市と農村が共生し交流する八千代市らしいまちづくりを目指します。」とあります。

八千代市を大まかにみると、北部は緑豊かな農村地域が広がり、南部は住宅街です。谷津・里山を保全していくうえで、北部の生産物を南部の市民が消費し、また、南部の人が谷津・里山の保全活動等の支援等を通して、人と人、物と物、文化など等の交流が盛んになることがポイントです。

計画では、モデルとして6の谷津・里山を選考し、地権者などの協力などから実施可能な谷津・里山の保全活動を実施することです。この実施場所の点が面として広がることが期待されます。幸いに地権者の協力があり23年度から保全活動が実施されるそうです。

谷津・里山を保全していくために、市民にできること、行政や事業者ができることをより具体的に進め、実行し、協働していくことが重要と思います。

今年も開催、エコメッセ!

例年どおり、昨年9月5日に「エコメッセ2010 in ちば」が行われました。

お陰さまで、来場者 10,500人、出展団体数 123団体と、前年を上回る盛況なイベントとなりました。

今年度も「エコメッセ2011 in ちば」が、9月4日(日曜)に幕張メッセで行われます。今年のテーマは、「ちば最大の環境活動見本市」となる予定です。ちなみに、昨年のテーマは「エコメッセで暮らしを変えよう生物多様性と地球温暖化」でした。

その他の詳細は検討中ですが、出展者や協賛者募集などの課題を優先して、以下のようなチラシを作り広報活動を開始したところです。環境パートナーシップちばの会員の皆様を始めとし、皆さまのお知り合いの方にもお声かけをしていただき、今年もぜひ、出展者、実行委員/スタッフ、協賛企業・団体として、ご協力をお願い申し上げます。

なお、お申込みやお問い合わせは下記にお願いします。(エコメッセ実行委員 牧内記)



◆エコメッセ2010の実績◆

来場者数: 10,500人

- ・生物多様性と地球温暖化ゾーン
- ・学生コーナー
- ・CSRコーナー
- ・ちばの里山・田舎暮らしエコバザール
- ・エコカー展示・試乗会
- ・エコステージ
- ・併催シンポジウムEARTH VISION in CHIBA
- ・エコクイズラリー
- ・缶つぶし大会

出展分野と団体数

・生物多様性	15団体
・地球温暖化	25団体
・循環型社会	14団体
・環境教育	19団体
・エコバザール	39団体
・その他	11団体
合計	123団体

お申込み&お問い合わせ

(財)千葉県環境財団 環境管理グループ 気付
エコメッセ in ちば実行委員会事務局
 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-11-1
 TEL 080-5374-0019
 FAX 043-241-3002
 E-mail: info@ecomesse.com
 URL http://www.ecomesse.com

知ろう、考えよう！私たちの生活と産業廃棄物！

平成22年度第2回として、千葉県主催の廃棄物の適正処理推進シンポジウムが2011年2月5日（土曜日）13時～16時30分、船橋市民文化創造館で開催されました。

産業廃棄物に関しては、事業所などが排出責任者であり、その量も、千葉県においては、一般廃棄物の10倍になっています。今回は特に、産業廃棄物の不法投棄や最終処分場の残余容量が危惧されている現状で、産業廃棄物を皆様にもっと知っていただくことにより、今後、適正排出と適正処理について、自分たちでできることは何かを考え、行動する良い機会と思います。

基調講演は、「ごみと歩んだ30年（ごみバカ日誌）」として、由田 秀人氏（日本環境安全事業株式会社（JESCO）取締役）の話がありました。元環境省の廃棄物・リサイクル対策部長をされて、国の環境行政、廃棄物・リサイクル対策に長く関わり、建設リサイクル法、容器包装リサイクル法の制定や廃棄物処理法の改正に携わったときに苦労された話が印象に残りました。

引き続き、「産業廃棄物処理の課題解決に向けて」のパネルディスカッションでは、パネリストとして、基調講演の由田 秀人氏、株式会社 市川環境エンジニアリング 代表取締役社長（社団法人



全国産業廃棄物連合会会長、社団法人千葉県産業廃棄物協会会長）の石井邦夫氏、株式会社タケエイ代表取締役会長 三本守氏の三人です。

石井氏、三本氏ともに、日本を代表する産業廃棄物処理業界の大御所です。お二人とも、廃棄物をまさに資源として有効に再利用するにはこうすればよいのだという、見本と道筋を示してくれた、素晴らしいご発表でした。この発表に対して、基調講演をされた、由田さんは、表現は違ってもかもしれませんが、自分が将来の廃棄物の処理はこうあるべきと考えていた以上の進展を図っているとコメントされたことに、尽きていると思います。石井氏の言葉で、「環境産業を発展させることが地球温暖化防止と循環型社会の構築につながる」、そして、三本氏のモットーの「環境を守ることは、未来を守ること」が印象に残りました。

（文責 加藤）

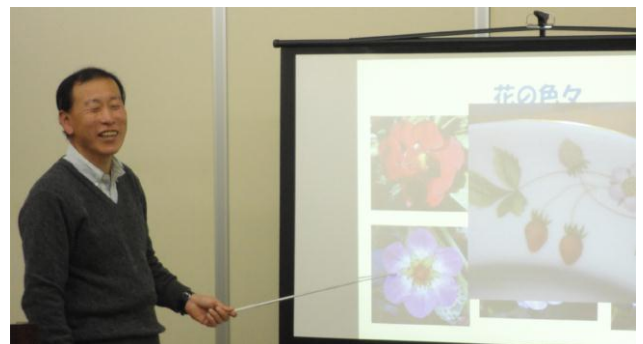
第47回環境パートナーシップ エコサロンの報告

ブランドイチゴの「ここが知りたい！」品種はこうしてつくられる ～農業と食を考える～

話題提供者：石川正美氏（千葉県農林総合研究センター育種研究所 野菜緑化育種研究室 室長）

2月17日（木）午後5:30から7:30まで、千葉市民活動センター1F 大会議室において開催しました。今回は、農業と食の面から環境を考えようと、長年千葉県の農業の発展に尽力されてきた専門家の石川室長をお招きしました。石川室長の現在のお仕事は、イチゴの新品種育成が中心ですが、県内のイチゴ農家支援だけでなく、あらゆる野菜の栽培指導などもなされています。

農林総合研究センターには、病気や天候の変化に強く、安心安全な農産物をつくるための栽培法の改善をテーマとする部門と、現在石川室長が所属される新品種の育成部門があります。新品種の育成は、交配→選抜のプロセスを繰り返し行う「交雑育種」で長い年月をかけて行われています。イチゴなどの野菜で5～10年程度、落花生、カンショなどの畑作物では10～12年以上かかるそうで



す。

新品種の育成は、まず次のような農業の諸課題の解決をめざした目標を設定します。

食糧の安定供給のために収量が多い品種、市場評価が高いおいしい品種、農業人口減少による労力不足に対応した手間がかからない品種、食の安心安全のため病害に強い品種・・・これらを専門

的に数値化した「育種目標をたてる」と「優良な親を選ぶ」ことが一番大変だそうです。

あとは、「いじめて、おだてて」選抜し、色々な場所での栽培試験を経て10年後にひとつの新品種にたどりつきます。ご専門のイチゴは、苗から繁殖させないと量産できませんが、そのためウイルスによる病気伝染のリスクが高く、健康な苗を研究所で量産して県内イチゴ農家に頒布されているほどです。その課題解決の切り札、「種子繁殖」が可能な品種の実用化が進んできました。それが普及すると病害が減少＝農薬使用を低減でき、苗の運搬の多大な労力が軽減され、長い育苗期間も短縮されるそうです。土壌消毒による地下水汚染の問題など環境面の問題を改善しながら量産が可能になり、生産者も消費者も恩恵を受けます。

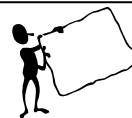
イチゴは単位面積（10アール）当たり最も収益性の高い農産物です。従ってイチゴ農家を目指す農家も増えています（千葉県では）。研究所では、農作物だけに目を向けているのではなく、関連する環境問題と農家の所得向上も常に意識され、そのためには付加価値の高い商品为消费者にきっちりPRすることも実践されていました。

今回のご講演にも研究所でとれたイチゴを持参してくださり、おいしく試食しながらお話をお伺いでき、参加者の皆さんは大満足の様子でした。

今年1月には千葉県市民会館で研究センター主催の公開講座「今が旬、千葉のイチゴ」を開催されました。イチゴマニアにも見逃せない内容だったと思います。今年の続きの講座も楽しみです。

（文責：平田）

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 4 — おききました！ この人・この団体



地球温暖化防止活動環境大臣賞表彰

「アースコン・マツド」

地球温暖化防止に向けたさまざまな活動を展開している市民グループ「アースコン・マツド」（土田茂通代表）が平成22年度の環境大臣表彰を受賞し、協働事業を行っている松戸市の本郷谷健次市長に報告されました。地球温暖化防止活動に顕著な功績のあったことで、「対策活動実践部門」が評価されました。土田代表は「今後も草の根運動を頑張っていきたい」と意気込みを新たにされています。

受賞したのは、地球温暖化防止活動環境大臣表彰の「対策活動実践部門」で、全国7団体が受賞され、アースコン・マツドのこれまでの地道な活動がたたえられました。平成22年12月15日に都内で授賞式が行われ、市役所に報告に訪れた会員らに対し本郷谷市長より「環境問題は難しい問題。今後もますます市民のために頑張ってください」と激励がありました。

アースコン・マツドは2002年設立。会員数は現在26人。「地球にやさしい行動宣言制度」や「エコライフシート（松戸版環境家計簿）」「かんきょうをチェックするノート（家族版環境家計簿）」等、松戸市独自のツールを利用し、省エネや温暖化防止に取り組む市民を増やすことで、家庭でのCO2排出量の削減を目指しています。アースコン・マツドでは、多くの市民に活動に参加してもらえよう、松戸市との協働事業「地球にやさしい行



川上副代表 松本環境大臣 土田代表

動宣言推進事業」を提案・採択され、一般市民対象の環境家計簿・省エネ講習会や、主として女性を対象にした「エコクッキング教室」「不要傘で作るマイバッグ自作教室」や小学生とその家族を対象にした「夏休み親子の環境講座（4日間シリーズ）」を実施しました。受講者に「地球にやさしい行動宣言」を呼びかけ、松戸市の減CO2担当室のリストに「行動宣言者」として登録した市民には、認定証を発行し、継続的な省エネ行動へのフォローをお願いしています。平成21、22年度は、まつど減CO2の日を中心に市内小学校一斉行動宣言を実施し、多数の小学生一人ひとりの行動宣言につなげています。（文責：広報部）

運営委員会報告

1月運営委員会

日時 平成23年2月17日(木)
場所 千葉市民活動センター 大会議室

報告・協議

- ①だより78号について
- ②Bay FM 基金申請済み
- ③廃棄物適正処理を推進するためのシンポジウム開催
- ④2月エコサロンについて
- ⑤アース・ダイヤモンドについて
- ⑥千葉市公民館講座について 他

2月運営委員会

日時 平成23年3月10日(木)
場所 船橋市民活動センター

報告・協議

- ①京葉ガスエコアクション事業開催
- ②環境学習コーディネーター活動発表会
- ③ちばエコスクールコンテスト2011
- ④総会に向けて(23年度事業等)他

お知らせ

平成23年度環境パートナーシップちば総会開催のご案内

平成23年3月11日の東北関東大震災を受け、何かと不安な日々ですが、下記の日時で平成23年度の総会を開催します。震災後の状況など踏まえて、今後の活動の再検討や支援等検討していきたいと思ひます。

当会は、多団体や個人の会員から構成されています。ぜひそれぞれのお立場から、当会が目指していく方向へのアドバイスなどいただき、環境保全活動を推進するために、市民団体・企業・行政等のパートナーシップをさらに図りたいと思ひます。

ぜひ多くの方のご参加をお願いいたします。また、交流会の場に、団体活動紹介の時間を設けてありますので、ぜひご報告をお願いします。

日時： 平成23年5月 8日(日) 13:00~14:50
場所： きぼーる 会議室4 (千葉市ビジネス支援センター15階)
(千葉市中央区中央4丁目5-1)

第1部 総会

- ☆平成22年度事業・会計・会計監査報告
- ☆平成23年度役員改選・新役員紹介
- ☆平成23年度事業計画(案)・予算(案)

第2部 交流会

※報告ご希望の団体(個人も可)は、4月22日(金)までに、事務局までお知らせください(プロジェクター使用可能です)。
※事務局 TEL:043-246-2180
e-mail:kuwahatak@hotmail.com

◆広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP: <http://kanpachiba.com> E-mail: info@kanpachiba.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: 千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先: 環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団
環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		